

### 1 学期終了まで2週間になりました!

4月の始業式で、田尻町立中学校の校訓である「自立・友愛」について話したのを覚えていますか。1年生は、淡輪にある青少年海洋センターで宿泊体験をしました。みんなで力を合わせて美味しいカレーを作った野外炊飯やクラス対抗レクなど、クラス・学年の仲間と力を合わせて頑張ったことを、今の仲間づくりにつなげることができていますか。この意識を高くもち、2学期の合唱コンクールや体育大会など、中学校での初めての大きな学校行事でも、成長した姿を見せてください。



2年生は、いつも皆さんのことを頼もしく思ってきましたが、特に3年生が修学旅行でいなかった3日間、先輩として1年生を見守り、引っ張ってくれたと聞いています。ありがとうございます!

そして、3年生。沖縄修学旅行に行きました。今年も、平和学習を中心に据えた素晴らしい修学旅行になりました。今年の沖縄修学旅行を振り返りますので、3年生はもちろん、1・2年生の人も読んでください。

### 今年もすてきな沖縄修学旅行でした!

3年生の皆さんは、6月15日(月)から17日(水)まで沖縄へ修学旅行に行きました。初日こそ豪雨でしたが、予定していたプログラムを行い、心動かされた場面がたくさんありました。初日、関西国際空港から飛行機が離陸する瞬間に、小さな歓声が上がりましたね。やはり、誰もが緊張する瞬間でした。すぐに冷静になった皆さんは、飛行機に乗り慣れているかのような機内マナーで驚きました。沖縄までの2時間のフライトがあっという間でした。那覇空港に到着した時は、雨が上がっていましたが、最初の目的地である平和の礎に向かう途中から雨風が強くなり、セレモニーを見送りました。お昼ご飯は、沖縄そばとジュースで現地の食文化を堪能しました。その後、ひめゆり

平和祈念資料館での講話と見学。ここへ行くまでがまさにスコールで、滝のような大雨でしたね。資料館では、一言も聞き逃さないよう聞き入る姿勢と、数々の展示を見つめる真剣な眼に感動しました。その後、雨もほとんど上がり、糸数壕アブチラガマに入れるようになり、81年前に繰り広げられた悲惨な状況を教えていただきました。案内人の方から、「素敵な子どもたちですね。礼儀正しくかわいい子たちで、案内できて嬉しく思いました。」と言ってくださいました。続いて、糸数壕前の施設で平和セレモニーを行いました。生徒会代表の さんのあいさつに続き、 さんが平和の誓いを述べ、



さんが千羽鶴を献納しました。その施設には、田尻中の先輩方の千羽鶴がたくさん並べられていて、平和のバトンが繋がっていることを実感しました。ホテルでは、お腹いっぱいになるまで、夕食バイキングを楽しみました。入浴後、クラスごとに集まり、ミーティングが開かれました。

2日目は、道の駅かでなへ行きました。基地から輸送機や戦闘機が離陸する様子も目の当たりにしました。100デシベルを超える音の中だと大声で叫んでも全く聞こえなかったですね。ここでの「82%」何のことか覚えていますよね。



その後、クラスごとに分かれ、地域の方との交流をしました。ここでの皆さんの取り組み姿勢は特に素晴らしかったです。地域のおじい・おばあもセンターの方も喜んでくださっていましたが、校長先生も君たちの表情や態度を見ると嬉しさや誇らしさ、様々な感情が混じってこみあげてくるものがありました。とても立派な態度でした。大いに褒めてあげたいと思いました。その後は、サザンビーチホテル&リゾート沖

縄のプライベートビーチでマリン体験を楽しみました。皆で「バナボート」や「ビーチフラッグ」「貝殻探し」などを楽しんだ後、部屋風呂でさっぱりしてから、美味しい夕食バイキングに舌鼓を打ちました。「学年レクリエーション」も大いに盛り上がり、みんなが一つになりましたね。



3日目もお天気は何とか持ちこたえて、とても暑かったです。おきなわワールドでシーサー色づけ、紙漉き、琉球着付け、ブクブク茶、機織り等の体験を楽しみました。午後からの那覇市国際通りでは、班別自由行動で好きなお昼ご飯を食べて家族へのお土産を買いました。那覇空港には予定通り到着し、余裕を持って搭乗手続きをしました。帰りの機内で、改めて安全に運行していただいていることに感謝しました。那覇発が少し遅れたにもかかわらず、関空到着が予定より早かったことには驚きました。今年度は空港解散としましたが、関空に着くと、保護者の皆さんや先生が帰りを待っていていました。人の温かさに触れ、安心感からホッとする瞬間でしたね。

感動の連続の3日間でした。すてきな沖縄修学旅行になりました。この素晴らしい伝統を守っていきたくて願っています。

(校長 水上 健生)

### 今後の予定

7/1(水)	期末テスト(最終日 給食あり)
7/3(金)	【2年生】思春期ふれあい学習
7/10(金)	平和講話(5・6限) 佐々木祐滋さんによる公演
7/13(月)	三者懇談(~16(木)) ※今年度より給食を実施します
7/17(金)	終業式
8/6(木)	平和登校日
8/25(火)	2 学期 始業式 【3年生】第1回学力診断テスト(2教科) 【1・2年生】夏休み課題テスト(2教科)
8/26(水)	【3年生】第1回学力診断テスト(3教科) 【1・2年生】夏休み課題テスト(3教科) <b>給食開始</b>

## 沖縄から、改めて平和・仲間との時間を考える

沖縄県糸満市にある「ひめゆりの塔」の左には、歌碑がひっそりと建っています。この短歌は、昭和20(1945)年当時、ひめゆり学徒隊を引率した教師、仲宗根政善(なかそね せいぜん)さんによって後に詠まれた、亡くなられた方を思って作られた鎮魂歌です。



「いわまくら かたくもあらん やすらかに  
ねむれとぞいのる まなびのともは」

固いごつごつとした岩場で亡くなったのは、さぞ無念で辛かったでしょう。心安らかに眠って欲しいと学友たちは願っています。

ひめゆりが学徒隊は、アメリカ軍による沖縄への攻撃に際して、戦争協力を求めるために作られた学生部隊の一つです。男子生徒14歳～19歳は、日本軍の指揮のもと、作戦を伝えるための通信係や、戦闘のための陣地づくりを行い、ついには爆弾を抱えて攻撃にも参加させられました。女子学徒は15歳から19歳まで戦場に動員され、負傷した兵の看護業務を担いました。学生の戦没者数は男女あわせて1984人と記されています。

仲宗根政善先生は、教え子の多くを戦争で失い、これからどう生きていこうかと苦悩していた頃、同じくひめゆり学徒隊で娘を無くした父からの便りで心を動かされ、「戦場で犠牲になった教え子を慰霊するため、外科壕のあった現在の地に「ひめゆりの塔」を建て、第1回ひめゆりの塔慰霊祭(1946年4月7日)で、戦死した教え子を悼み、霊前にこの歌を捧げました。

それから数十年の年月が流れたある日、ひめゆり学徒の同窓会で仲宗根先生は「私たちが戦争の悲惨さを語り継がなければ、いつか風化してしまう。再び戦争の犠牲者を出してしまう」と語り、戦争体験を後世に残していくべきだと訴えます。

しかし、教え子の誰もが、これまで当時の体験を積極的に語ろうとはしませんでした。それはなぜだと思いますか?...

...人間は、人生の中で嬉しい思いや悲しい体験を繰り返しながら成長します。自分が体験したことは、いくつになっても身の周りの「誰かに聞いてもらいたいもの」です。ところが、とてつもなくショックな出来事、重い苦しさや悲しい体験は「二度と思いたくないもの」だといいます。思い出すだけで、あの時の苦しさや悲しさ・つらさがよみがえってくる。そしてまた胸が痛くなる、息苦しくなる、何日も眠れない日々が続く...。戦争体験者の多くがそうおっしゃっています。

...それに、勇気を振り絞って言葉にしても、この体験を知らない人に話したところで「ああ、そうだったんだ」「へえ、知らなかった」といった感想で、とても当時を想像するのは難しく、どれだけの方が事実を正確に、事態を重く受け止めてくれるのかはわかりません。

それでも、仲宗根先生は何度も何度も説得されたそうです。戦後、多くの時間が経過し、生活が豊かになってゆく中で、ものや人を大切にできない人が増えていくこと...。戦争は遠い昔にあったことで、「今の自分たちには無関係」なこと、世界各地では今も戦争が起きていること...。ひめゆり学徒隊として経験した元生徒たちは、一人、また一人と伝える大切さを肌で感じるようになってきたといいます。

「私たちが伝えなければ、亡くなっていった仲間たちの悔しさ、戦争の無残さを誰が伝えるのか!」...この思いが実を結び、平成元(1989)年6月23日、ひめゆり平和祈念資料館が開館しました。仲宗根先生は初代館長を務め、元ひめゆり学徒隊の生存者を中心に館内展示の説明を開始したのです。終戦から44年の月日を要しました。

田尻中学校は、20年以上沖縄への修学旅行を実施し、ひめゆり平和祈念資料館の見学を行程に入れていきます。

2015年、ひめゆり元学徒隊による資料館での講話活動を引退されるというニュースが流れました。長年にわたって行ってきた活動には相当の精神的・体力的な労力が払われてきました。しかも、60歳を過ぎてから始められた活動です。ご高齢に伴う引退宣言はむしろ当然です。しかし同時に「今後は貴重な戦争体験が直接聞けなくなる」という危惧を感じたのも正直な感想でした。

ところが数か月後、元ひめゆり学徒隊として大阪府内で語り部活動を続けている方の存在を、新聞報道で知りました。私はさっそく連絡を取りつけ、当時の田尻中2年生に講話をしていただきました。

講話当日、講師の新川初(あらかわ はつ)さんは生徒を前にして、静かに話し始めました。アメリカ軍上陸9日前に病院勤務を命じられ、丘の斜面を掘った横穴に簡易ベッドを並べた野外病院。爆撃で腹部が裂かれ、手足を失った兵の手当てをする毎日。食事の支度中に爆風で負傷し、自死を迫られる中、仲間にも救われ壕を出た。解散命令でも死を決意したが手りゅう弾が不発だったため生き延びた壮絶な体験。

すでに80歳代とご高齢でしたが、穏やかな話しぶりの中にも力強さがあり、沖縄戦のことを克明に話してくださいました。「平和」「命」という言葉にも重みを感じられました。

話の最後に、冒頭の短歌「いわまくら...」を歌ってくださいました。高く透き通った歌声には、当時の同級生や先生方に込められた強い思いと、平和を築いていくという力強い使命感を感じずにはいられませんでした。話を終えて、講師の方から私たちにお手紙をいただきました。ご紹介します。

「命どう宝(ぬちどうたから) 命は生きていてこそ最高の価値があり、尊く有難く何物にも勝る宝です。

沖縄の地の底、海の底から戦争のない平和を訴え叫ぶ恩師や学友の声なき声が、戦場をともにした私には聞こえてきます。

みなさん、今授かっているかけがえのないたった一つの命を本当の意味で大切にしてください。大切にできる人は、人の命も大切にします。人の気持ち、痛み、悲しみのわかる人の周りには平和が訪れ幸福を招きます。この輪を大きく広げ、世界平和の実現こそ切に願って止みません。

新川 初

3年生が沖縄でとても大切な学びを体験したこの時期、改めて皆さんに平和そして仲間との大切な時間について考えることができれば幸いです。

(教頭 横井武志)

